

令和 5 年 6 月 6 日現在

機関番号：11301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2022

課題番号：18K02693

研究課題名(和文) 大学における国際教育交流スタッフの専門性とキャリア形成に関する実証的比較研究

研究課題名(英文) Comparative Study of Professional Development and Career Formation of University Staff in an International Affairs Division in Japan

研究代表者

渡部 留美 (Watanabe, Rumi)

東北大学・高度教養教育・学生支援機構・准教授

研究者番号：90397787

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：大学の国際教育交流部署に勤務するスタッフの調査を行った。日本においては、正規職員でない有期雇用のスタッフは、豊富な経験に加え、多様で幅広いキャリアや専門性をもっており、大学の国際化に貢献できる人財であることが示唆された。しかし、職場環境や満足度の高い待遇がなければ、もっている知識や経験が発揮できず、業務遂行のモチベーションに繋がりにくいことがわかった。米国においては、正規雇用、有期雇用という区別はなく、専門職化が進んでおり、転職をしながら、キャリアアップを行うことが通常であることがわかった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

世界の大学の国際競争は激化しており、日本の大学においても、大学の国際化の推進が至上命題となっている。一部の分野では大学スタッフの専門職化が進んでいるが、国際教育交流分野においても導入が期待されている。本研究では、日本と米国の現状を調査し、どのような背景や専門性をもったスタッフが勤務しているのか、業務遂行の壁や課題について明らかにすることで、大学組織や雇用形態のあり方について検討し提案をおこなうことで、日本の大学の発展に貢献できると考える。

研究成果の概要(英文)：We conducted a survey of staff working in the international educational exchange departments of universities. The results suggest that in Japan, non-permanent, fixed-term staff have a diverse and wide-ranging career and expertise, in addition to a wealth of experience, and that they are human resources who can contribute to the internationalization of the university. However, without a satisfactory work environment and satisfactory treatment, it is difficult for them to demonstrate their knowledge and experience, and it is difficult for them to be motivated to perform their duties. In the U.S., there is no distinction between full-time and fixed-term employment, and it is common for employees to change jobs as they advance in their careers.

研究分野：国際教育交流

キーワード：大学職員 大学スタッフ キャリア形成 専門性 国際教育交流 非正規雇用 有期雇用

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

(1)本研究が開始された 2018 年度は、世界中で、国際教育交流分野に関する研究や実践が隆盛を極めていた。日本の大学においては「スーパーグローバル大学創成支援事業」「世界展開力強化事業」をはじめとする国際教育交流政策に関する国家事業の助成を受けた大学を中心に、留学生の受入れ、国内学生の海外への派遣、海外協定校締結、英語によるコースやプログラムの増設などをおこない、国内競争だけでなく、海外の大学を相手に国際教育交流を展開、発展させていくことに対する必要性、認識が益々高まっていた。

(2)大学の正規事務職員については、それまで研究を行い、日本では、ジェネラリストを養成することが基本姿勢としてあるため、異動が常で、専門職化が十分には進んでいないことが示唆された。様々な職場を経験することで大学職員として成長を実感している者、勉強会への参加や大学院への進学等自主的な活動で専門性を向上させている者がいた。一方で、教員と事務職員の権限の壁にはやりにくさや葛藤を抱える者、上司の無理解のために職能開発の機会が得られない者、専門性を身につけても現場で活かすことができない者などがいたことも明らかになった。

(3)日本の大学においてグローバル化が進む一方で、日本の雇用形態の変化、経済状況悪化などの背景を受け、大学においては、有期雇用契約スタッフ(教職員)が増えるなど、大学の国際化を支える人材が多様化していた。有期雇用契約スタッフの増加により、業務や学生への教育内容の継続性や質保証について現場で課題となっていると想定される。また、こういったスタッフがどのようなバックグラウンドや専門性をもち、業務遂行に活かされているのか、任期終了後にどのようなキャリアを辿っているのか、については実態が把握されているとはいえなかった。

### 2. 研究の目的

(1)本研究では、日本の大学の国際教育交流部署に勤務する有期雇用契約スタッフを対象とし、彼らのもつ専門性とキャリア形成の実態を質的・量的調査を行うこと、海外の大学において同様の調査を行い、国際比較研究を行うことを目的とした。

(2)国際教育交流部署スタッフの専門性とキャリア形成について仮説的モデルを提示し、日本の大学が人的・予算的リソースが限られていくなかで、有機的にあらゆるタイプのスタッフを活用できる職能開発や人事体系などの大学組織のあり方について提言を行い、キャリア形成等に関する研修を開発、実施することを目的とした。

### 3. 研究の方法

(1)大学職員論、キャリア形成、非正規雇用に関する研究、組織論、国際教育交流スタッフに関する報告、レポートなど、国内外の文献を収集し、整理を行なった。そのうえで、課題、仮説の設定を行い、仮説を検証するためインタビュー調査を行うこととし、項目の検討を行なった。インタビューに際しては、研究者の所属する大学の事務職員へ依頼するだけでなく、研究者のネットワークを用い、広く日本の様々な大学に依頼を行い、インタビュー協力者を募ることとした。調査項目は、過去の経歴や大学での専攻などの他、現在の職に就くようになった経緯、必要とされた専門性(知識、能力、経験等)、業務をおこなうなかで身につけた専門性、職場で必要だとされる専門性、将来的なキャリアパスについての考えなどである。

(2)国際比較研究をおこなうため、研究分担者で、北米、欧州、豪州、アジアの国際教育交流が盛んな大学、あるいは、研究分担者が個別にコネクションのある大学の担当者へ日本での調査と同様の質問項目についてインタビューを行うこととした。その際、日本と海外では組織体制、大学の雇用体制、大学スタッフのキャリアパスの方法、などが異なることが文献調査で明らかとなったため、インタビュー項目を基本としながらも、独自の質問やインタビューで語られる内容が派生することも想定し、実施することとした。

### 4. 研究成果

#### (1)研究の主な成果

##### 国内の大学における調査

まず、国内の調査については、有期(非正規)雇用の事務職員を対象とし、20 数名にインタビュー調査を実施した。有期雇用職員は、豊富な経験に加え、多様で幅広いキャリアや専門性をもち、大学の国際化に貢献できる人財であることが示唆された。自身がもっているキャリア経験や専門知識を業務に活かしている一方、これらがうまく活かされる職場環境や満足度の高い待遇がなければ、もっている知識や経験が発揮できず、業務遂行のモチベーションに繋がりにくいことがわかった。

有期雇用職員の抱える課題に対する改善点として、以下のように提案をおこなった。

課題	課題の属性	改善案
業務に対する役割や範囲の定時の曖昧さ	組織上の課題	職員の業務を組織の業務目標に組み込む。職員が組織における自分の業務の位置付けを客観的に理解する。部署内での連携の強化を図る。
待遇面(賃金の低さ、福利厚生の不十分さ)	大学運営上の課題	大学は法律で定められた同一労働同一賃金を遵守した契約内容にする。契約内容についてコンセンサスを得たうえで、契約を結ぶ。
キャリアパス提示の不十分さ	組織上の課題	知る権利のある情報については、不公平感が出ないように誰に対してもわかりやすい提示方法で情報の提供を行う。

渡部 (2021, p.62)

#### 海外の大学における調査

海外の調査については、研究期間の途中で、COVID-19の影響により、国外の出張が不可能となり、予定していた調査を行うことができなくなった。そこで、それまで国内で収集したデータ、海外における予備的調査、文献をもとに、日本の大学の国際教育交流における担当者のもつ専門性やキャリア、また、キャリアパスの特徴的な点、組織的課題、キャリアパスの提示方法などについて議論をおこなった。その結果、正規雇用、有期雇用という区別は日本特有の雇用概念であることが示唆された。また、日本においても労働法上、非正規雇用という区分がないことも明らかになった。

その後、COVID-19が少し落ち着いたため、オンラインツールを用い、米国の国際教育交流部署に勤める大学スタッフ(一般的なスタッフ、管理職の立場にある者双方)に絞りインタビューを行うこととした。その結果、米国の大学の国際教育交流に勤務する10数名のスタッフの仕事に対する、内的動機づけ、外的動機づけそれぞれについて明らかにすることができた。

#### 研究会の開催

これらの研究成果をもとに、国際教育交流部署に勤務する、または勤務に興味のある人々を対象とした研究会を2021年3月6日(土)10:00-13:00に開催した。内容は、第一部：研究成果の発表、第二部：米国・カリフォルニア大学デービス校の外国人学生・研究者向けサービス部門(Service for International Students and Scholars, SISS)の部門長(Director)であるWesley Young氏による講演、第三部：少人数に分かれてのグループワークであった。講演を聞くだけでなく、参加者も主体的に発言していただくことを期待し、参加者には、知識や情報の取得、ネットワーク形成に役立ててほしいという意図もあり、定員を30名とした。関係するメーリングリスト等で広報をおこなったところ、1週間で定員が満たされ、ウェイトングリストができるほどであった。

Wesley氏による講演「Introduction to SISS and Global Affairs」では、部署(SISS)の紹介、スタッフの雇用、スタッフの職能開発(Professional Development)と研修(Training)について語られた。スタッフの雇用には専門学位を求めないものの、多様な文化や経験をもつ人々とのコミュニケーション能力、短期間での業務習得能力、自律的に考え、仕事に取り組む姿勢、業務遂行やチームの一員になるためのやる気(motivation)、また過去の経験も重要視することが紹介された。また、スタッフの研修については、できるだけ関係する学外の会議(conference)に行かせたいが、政府の方針が頻繁に変わるのが足を引っ張っているということであった。また、COVID-19を経験し、働き方やスケジュールの管理について部門の長として考える機会となったと話した。

講演後の質疑応答では多くの質問が寄せられ、時間が足りず回答できない部分は、終了後に回答いただき、質問者に返答した。米国と日本では組織体制や大学スタッフの雇用形態が異なるため、日本の大学の文脈に合わない部分も多いかと思われたが、国際教育交流という共通する部署で重視される能力や経験は同意、また日本でも応用できる部分が多く、今後の研究の参考にすることができた。

#### (2)得られた成果の国内外の位置づけとインパクト

本研究では、日本での調査、また海外は米国のみでの調査となり、組織体制、雇用形態など根本的な部分が異なることもあり、比較をすることは困難であった。しかしながら、収集したデータから明らかになったことや、研究会で米国の担当者から語られた内容、参加者からの質問、発言などでは、国際教育交流分野における専門性、基本姿勢はある程度合致していると考えられる。学会発表や投稿論文で発表することにより、大学関係者や他の研究者の目に留まることができたと考える。

#### (3)今後の展望

研究計画では、質的・量的調査をおこなうこと、複数の国における調査をおこなうことを掲げていたが、研究時間が十分に取れなかったこと、COVID-19の影響もあり、計画通りに実施することはできなかった。学会発表での質問やコメント、論文を読んだ関係者からいただいたさまざま

な意見やコメントについて、今後の研究を発展させるうえで、大変貴重な材料となった。将来ますます国際化を推進する日本の大学だけではなく日本全体の底上げのため、これらの研究成果をもとに、応用・展開していきたいと考える。

#### 引用文献

渡部留美（2021）「大学の国際教育交流部署における非正規事務職員のキャリア形成 国立大学法人に勤務する4名のライフストーリーから」 「留学生交流・指導研究」23号、国立大学留学生指導研究協議会、pp.51-64

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 渡部留美、新見有紀子	4. 巻 8
2. 論文標題 ピアサポートによる留学生支援 - 東北大学留学生オンラインヘルプデスクの試み -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要	6. 最初と最後の頁 pp.259-268
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 渡部留美	4. 巻 23
2. 論文標題 大学の国際教育交流部署における非正規事務職員のキャリア形成 国立大学法人に勤務する4名のライフストーリーから	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 留学生交流・指導研究	6. 最初と最後の頁 51-64
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 渡部留美、新見有紀子、末松和子、渡邊由美子	4. 巻 7
2. 論文標題 ピアサポートによる留学生支援 - 東北大学留学生ヘルプデスクの試み -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要	6. 最初と最後の頁 345-355
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 島崎薫、プレフューメ裕子、渡部留美	4. 巻 8
2. 論文標題 東日本大震災の被災地での日米の大学生による国際共修プロジェクト-被災地に暮らす人々の魅力を発信するHumans of Minamisanriku	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 言語教育実践「イマ×ココ」	6. 最初と最後の頁 51-63
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Akiba, H., Yonezawa, Y., & Suematsu, K.	4. 巻 -
2. 論文標題 Bringing the world to the Japanese classroom	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 EAIE Spring Forum	6. 最初と最後の頁 pp.16-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計15件 (うち招待講演 1件 / うち国際学会 2件)

1. 発表者名 渡部留美
2. 発表標題 コロナ禍の留学生支援&-東北大学の事例-
3. 学会等名 2021年度第2回国立大学法人留学生指導研究協議会 (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 秋庭裕子、平井達也、米澤由香子
2. 発表標題 多文化ファシリテーション能力に関する基礎的研究 - 近接分野の文献レビューを通して -
3. 学会等名 異文化間教育学会第42回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Suematsu, K., Akiba, H., Yonezawa, Y., & Hirai, T.
2. 発表標題 We can still make our classes diverse and interactive: Development of online intercultural collaborative learning classes
3. 学会等名 AIEA Annual Conference (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 渡部留美・新見有紀子
2. 発表標題 学生による留学生支援 - 東北大学の学生スタッフ雇用の取り組み -
3. 学会等名 国立大学留学生指導研究協議会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 渡部留美
2. 発表標題 留学生オンラインヘルプデスクによる留学生支援
3. 学会等名 第25回留学生教育学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Suematsu, K., Akiba, H., Yonezawa, Y., & Hirai, T.
2. 発表標題 We can still make our classes diverse and interactive: Development of online intercultural collaborative learning classes
3. 学会等名 AIEA Annual Conference (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 新見有紀子、秋庭裕子
2. 発表標題 高校時代の国際的な経験と高校卒業後の海外留学の関連性 国際教育の高大連携に向けて
3. 学会等名 異文化間教育学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 秋庭裕子
2. 発表標題 RAUL研修 - チームのなかで自分の特性・強みを生かした寮づくり -
3. 学会等名 中央大学国際寮RAUL研修
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 末松和子、平井達也、米澤由香子、秋庭裕子
2. 発表標題 第2回 国際共修を实践から学ぶ - オンライン授業の導入で変わる学び、変わらない学び -
3. 学会等名 2020年度JAFSAオンライン研修
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 末松和子、秋庭裕子、北出慶子、高橋美能、水松巳奈
2. 発表標題 オンラインでもできる！『国際共修』ワークショップ
3. 学会等名 2020年度国際教育夏季研究大会（SIEJ）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 秋庭裕子
2. 発表標題 国際教育交流業務内容の紹介
3. 学会等名 2020年度JAFSA初任者研修
4. 発表年 2020年



1. 発表者名 渡部留美・坂本友香
2. 発表標題 国際教育・国際交流分野における大学非正規職員の動機・専門性・キャリア形成に着目した
3. 学会等名 留学生教育学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Suematsu, K., Akiba, H., Yonezawa, Y., & Hirai, T.
2. 発表標題 Going beyond campus: Comprehensive internationalization with local and business communities. AIEA Annual Conference,
3. 学会等名 AIEA Annual Conference
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Coelen, R., Tran, L., & Akiba, H.
2. 発表標題 Encompassing multiple voices: a comparison of study abroad trends and practices across Australia, Europe and Japan
3. 学会等名 EAIE Annual Conference
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 堀江未来、秋庭裕子、高木ひとみ、筆内美砂、平井達也
2. 発表標題 『異文化体験から学ぶ』教育実践の質向上を目指して 国際教育ファシリテーター育成の現状と展望
3. 学会等名 異文化間教育学会
4. 発表年 2019年

## 〔図書〕 計2件

1. 著者名 秋庭裕子（村田晶子編著）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 くろしお出版	5. 総ページ数 320
3. 書名 「コロナ禍で留学希望の学生をどう支えていくのか：オンライン国際交流にみる可能性と課題」『オンライン国際交流と協働学習：多文化共生のために』	

1. 著者名 末松和子、秋庭裕子、米澤由香子（編）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 東信堂	5. 総ページ数 314
3. 書名 国際共修：文化的多様性を生かした授業実践へのアプローチ	

## 〔産業財産権〕

## 〔その他〕

-

## 6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	秋庭 裕子  (AKIBA Hiroko)  (10313826)	一橋大学・大学院経営管理研究科・講師   (12613)	
研究分担者	坂本 友香  (SAKAMOTO Yuka)  (30814230)	東北大学・高度教養教育・学生支援機構・特任准教授   (11301)	
研究分担者	米澤 由香子  (YONEZAWA Yukako)  (60597764)	東北大学・高度教養教育・学生支援機構・准教授   (11301)	

## 7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

## 〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------